

今回ロサンゼルスで設計事務所を開設している吉岡氏のもとを訪れ話しをする事ができた。吉岡氏は現在店舗内装設計をメインに行っておりいくつかの作品を見せてもらう事ができた。素材はガラス・ポリカーボネート系の透明素材がよく使われるようでその辺は日本とあまり変わらないと思われる。吉岡氏は日本の建物はアメリカと比べるとレベルが高いが、デザイン、発想はアメリカ人のトップの建築家の方がレベルが高いと感じるそうである。その中でも、現在一緒に事務所で仕事をしている建築家というよりはデザイナーに類するのだろうか、Tony氏の話も聞く事ができた。Tony氏は建築雑誌にも名前の載るような人物で独特な建築計画の手法を持っている人物であった。日本の建築物をただの箱と批判する部分はあったが、彼の作品を見ると確かに日本の建物は箱に感じられるのかもしれない。彼の作品はほとんど四角形というものがなく、曲線で形成されていた。その計画手法というのが、紙を適当に丸めてそのアウトラインを建築物のアウトラインとし、内部空間を計画していくといったおよそ発想できない手法で計画するらしい。アメリカでもトップの一握りの人物ならではの手法との事だが、そのような柔軟な考え方というのは今後計画する上で参考になるのではと感じた。手法がいいというのではなく、もっと頭を柔らかくいろいろな視点から計画するといった点においてという事ではあるが。スタッフも今後仕事をする上で貴重な体験ができたのではないだろうか。

